商工会議所活用レシピ

FILE 27

「紙」のまちの新製品が世界に進出 商工会議所のおかげでとてもスムーズでした

富士市は、紙産業が盛んなまち。その中でも弊社は、再生紙を主な原料にした「紙ひも・紙バンド」を製造しています。

紙ひもはショッピングバッグの手提げ部分や新聞・雑誌などの古紙結束用として、紙バンドはコメやムギを入れるクラフト袋の口閉じ用として、広く使われています。

梱包資材として45年ほど前に開発された紙バンドは、現在、カゴやバッグなどをつくる手芸の素材としても使われています。安全で加工しやすいことから、子どもからお年寄りまで幅広く親しまれ、約40色もの種類があります。

このように、紙バンドという素材がいろいろな形に進化して一般消費者にも広まっていく中、弊社は富士商工会議所が主催する紙産業関連事業に積極的に参加。専門のアドバイザーによる指導を受けた結果、素材の持つさまざまな特徴を引き出し、多くの商品開発に成功しました。

例えば、果物を入れて食卓などに置くためのボウルがあります。これは、紙バンドの帯を同心円状に幾重にも巻きつけることで、食器として成型したもの。はっ水性と耐久性を高めたことで、プラスチック製の同種商品のように洗うことができます。

さらに、光沢をあえて抑え、紙としての質感を残しました。しかも、色とりどりの紙ひもを使うため、組み合わせは無限。ほかのインテリアとコーディネートしやすいのも魅力です。

実は「紙バンド」という素材は、一部の国を除いてほとんど海外ではみられません。このため、弊社の商品が欧米人の目にどう映るのか大変興味がありました。

そこで同所の継続的な支援を受け、ヨーロッパで開催されるインテリア関係の国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」（フランス・パリ）や「アンビエンテ」（ドイツ・フランクフルト）に出展したところ、予想以上に大きな反響を得ることができました。

日本人は、障子やふすまなど、家屋の一部にさえ紙を使う国民です。つまり、紙を原材料とする本事業の商品には、わが国のオリジナリティーがあふれており、世界から注目される可能性を秘めているのです。これからも、同所と力を合わせて、世界中の人々を驚かせるような商品を生み出していきたいと思います。

植田産業株式会社
代表取締役社長
植田 剛 さん

ご相談は最寄りの商工会議所までお気軽にどうぞ

担当者からひと言

平成19年度、当所は地元の基幹産業である「紙」を素材に、新たな視点と魅力的なデザインを取り入れた新商品開発事業「紙のカタチプロジェクト」に取り組みました。

その当時から、植田産業は紙バンドの手芸分野での利用方法を普及させるなど、先進的な活動を展開していたので、本事業に参画してもらいました。

インダストリアルデザイナーの指導を受けて、立ち上げたのが〝cuiorA（キュオラ）〟という名前の新ブランド。3年にわたる一連の活動を通じて、国内外の展示会に参加し、販路開拓に努めてきました。

植田さんの積極的な事業展開が、地元経済の活性化につながることを願っています。

富士商工会議所
（静岡県）
総務部振興課長
鈴木 優彦